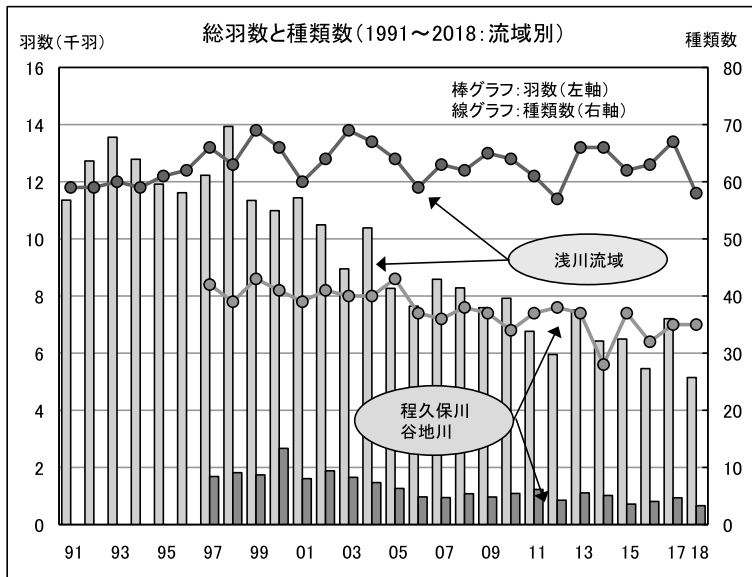


2018年・越冬期調査の報告・2

前号からの続きの報告です。今年の1月6日(土)～1月14日(日)に実施しました「カモを中心とした個体数調査」において、八王子・日野カワセミ会は毎年精力的に調査されています。同会の会誌『かわせみ』第60号に、今年の浅川流域を中心に19区間で、1月14日午前に一斉に行われた成果が載せられています。また、別の日に、多摩川右岸の多摩大橋～府中四谷橋間の調査が実施され、その報告もいただいています。

大変興味ある成果ですので、同会の了解をえて、その一部を紹介します。調査者・協力者の方々に感謝いたします。
〔研究部〕

1. 浅川流域・程久保川・谷内川での一斉調査



〔グラフ〕出典：『かわせみ 第60号』（2018年）

この調査は1991年に開始されていますが、今年は全体で58種5,809羽(昨年は69種8,144羽)が記録されています。その結果は過去最低であった2016年をさらに下回る数で、種類数も過去最低の2012年に並ぶものだったとのことです。〔グラフ〕

グラフから、東京都の西部の丘陵地での越冬期の状況がよくわかります。特に個体数の減少は右肩下がりであり、将来が心配されるデータです。しかも、この現象は八王子・日野市に限らず、東京都の住宅地や商業地区、公園などの緑地でも同じ傾向が見られますので深刻です。たぶん、同じことは東京だけでなく、全国的なことと思われます。

2. 多摩川中流域における注目水鳥10種の10年間の推移

多摩川における八王子・日野カワセミ会の調査分担は、右岸の多摩大橋～JR中央線鉄橋～石田大橋～国立市・府中市境～浅川合流点～府中四谷橋に5地点です。ここでの5年ごとの2018・2013・2008年のカウント調査結果を並べると表のようになります。

〔表〕多摩川中流域における注目水鳥10種の推移

No.	種名	2018年	2013年	2008年
1	カイツブリ	17 (5)	22 (4)	16 (3)
2	カワウ	76 (5)	93 (4)	25 (5)
3	ゴイサギ	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4	ダイサギ	57 (5)	29 (4)	32 (5)
5	コサギ	17 (1)	98 (2)	65 (5)
6	アオサギ	26 (5)	18 (3)	20 (5)
7	バン	0 (0)	7 (2)	0 (0)
8	オオバン	66 (4)	0 (0)	5 (2)
9	ユリカモメ	1 (1)	0 (0)	0 (0)
10	カワセミ	9 (3)	2 (2)	6 (3)

〔表凡例〕記録個体数(記録か所数)

今回のデータの出典はすべて八王子・日野カワセミ会で、同会に感謝いたします。一覧表にしてまず気になったのは、バン〔写真〕の状況です。個体数が減っているのは多摩川だけでなく、都内各地の水辺で減少傾向が見られます。また、コサギ〔写真〕の状況も注意が必要と思われます。逆に、大型のダイサギ・アオサギは増加傾向が続いています。現時点ではその理由や意味するところはわかりませんが、繁殖地でのようすなども併せて必要があると思われます。



〔写真〕減少傾向が見られるバン(左)とコサギ(右) © H.Kawachi

【調査者・協力者】

青木静子、浅野恵美子、浅野幸男・他2名、井上京子、市橋ゆみ、岩崎和代、植木裕子、植田益夫、植田裕子、植村勝代、岡田浩郎、岡本昭男、岡本昭子、小澤礼子、小澤節子、加藤岸男、粕谷和夫、門口一雄、門倉美登利、河田徳子、菅野桂子、木澤隆雄、木野孔司、木村晴美、倉本 修、久保山嘉男、小太刀昭夫、小太刀菊子、小張義雄、坂本良子、佐藤サヨ子、佐藤哲郎、佐藤洋一、白川 司、白川史子、杉森ユリ、関谷 孝、傍島玲子、対中義雄、高梨規子、玉木雅治、玉手道雄、玉手しのぶ、千葉楨子、登坂久雄、仲尾政幸、中村后子、中村経男、中山千晶、中山尊人、西村恵里子、延原さよ子、延原 寛、長谷川典子、長谷川篤、馬場隆進、浜野建男、浜田早苗、浜野知恵子、原田佳世、福本 健、水渡トシ子、福本順吉、古山 隆、丸山二三夫、宮越俊一、宮越リカ、武藤邦子、村田靖雄、吉野秀夫、山浦秀雄、山崎久美子、山崎悠一、山沢良雄、山下弘文、柚木鎮夫、柚木育子、横山由美子・他1名、若狭 誠、渡辺敬明、渡辺正樹

〔以上81名ほか〕

カワセミの写真募集

今秋、都内や近郊で撮られたカワセミの写真展を、細野工務店ショールーム〔JR杉並区阿佐谷駅近く〕で予定しています。作品を2L〔キャビネ版〕サイズにプリントしてお送りください。

撮影場所・年月日・撮影者名・連絡電話番号を付してください。締切：8月31日

送り先：〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京・カワセミ写真係